

○計画期間：令和5年4月～令和10年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和6年度終了時点（令和7年3月31日時点）の中心市街地の概況

令和5年4月から、目指す都市像である『昼も夜も歩いて楽しめる、いつまでも魅力的なまち』の実現に向け、事業に取り組んでおり、令和6年度においては、中長期的な視点で目指すまちの姿と方向性を共有し、官民連携によるウォーカブルなまちづくりを進めるために「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図（熊本市中心市街地ウォーカブルビジョン）」を策定した。また、昨年度に引き続き、台湾などの東アジアを中心としたインバウンド需要の拡大等により、中心市街地のにぎわいが創出されている。

熊本城地区では、熊本城の復旧が進む中、新たな取組として、秋のお城まつりに合わせて熊本城の古井戸の水を使用したミストにより、日本最大級の人工雲海を出現させる「雲上の熊本城」が公開された。ライトアップや音楽を使った演出を組み合わせることで、これまでにない幻想的な熊本城の姿を見ることができ、多くの来場客により新たなにぎわいが創出された。今後も、引き続き期待されるインバウンド需要を取り込むために、新たな魅力の創出や中心商店街等への回遊性の向上に繋がる事業を進めていく。

通町筋・桜町周辺地区では、くまもと花博など花畑広場や中心商店街一帯で多種多様なイベント等が開催され、にぎわいの創出や回遊性の向上が見られた。また、8月には、熊本市新庁舎整備に関する基本構想が策定され、今後は熊本市役所の新庁舎整備を契機とした、現庁舎跡地の活用を含む周辺エリアの一体的なまちづくりを推進するため、まちづくりの方向性や考え方を定める「（仮称）庁舎周辺まちづくりプラン」の策定など、中心市街地全体の更なる活性化への検討を進めていく。

新町・古町地区では、歴史的建造物や町屋等が多く残っている地域であり、地域住民及び関係団体と連携したまちづくりを進めており、路地や寺社・町屋跡地の駐車場を活用し、こどもの遊び場や地域交流の場として利用する実証実験に取り組むなど、良好な町並みの創出や、地域の歴史まちづくり活動の活性化を図っている。また、唐人町通りでは、明八橋につながる市道部分の道路美装化等を行い、歴史的町並み景観やにぎわい向上につながる道路空間を整備した。今後は更なる町並み景観の向上を図るため、唐人町通り（県道部分）の道路美装化等に取り組んでいく。

熊本駅周辺地区では、駅前広場「アミュひろば」での恒例となったイベントに加え、地域の学生や台湾の自治体との連携イベントが開催されるなど新たな魅力が創出されている。また、大型マンションの建設に伴い、居住人口も増加しており、インバウンド需要との相乗効果により、開業4年目を迎えるアミュプラザくまもとでは、令和6年度の売り上げが301億円と過去最高を記録している。今後は熊本駅新幹線口駅前広場の再整備を予定しており、熊本の陸の玄関口として、安全性・利便性の向上に取り組んでいく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(1) 居住人口

(単位：人)

(中心市街 地区域)	令和3年度 (基準年度)	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
人口	37,617	37,864	38,702	39,407			
人口増減数	415	247	838	705			
自然増減数	▲44	▲96	▲162	▲163			
社会増減数	459	343	1,000	868			
転入者数	4,429	4,458	5,086	5,015			

(2) 地価

(単位：円/㎡)

	令和4年 (基準年)	令和5年 (計画前年)	令和6年 (1年目)	令和7年 (2年目)	令和8年 (3年目)	令和9年 (4年目)	令和10年 (最終年)
中心市街地 商業地域 平均	735,750	732,667	748,917	772,167			
下通1丁目 12番23	1,420,000	1,410,000	1,430,000	1,460,000			
上通町 1番16	1,310,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000			
花畑町 12番6外	631,000	631,000	654,000	682,000			
新町1丁目 7番36外	200,000	207,000	218,000	229,000			
中央街 4番30	583,000	580,000	594,000	638,000			
上鍛冶屋町 8番2	217,000	224,000	238,000	253,000			
呉服町2丁目 36番1外	228,000	237,000	252,000	267,000			
草葉町 4番9	428,000	437,000	458,000	488,000			
下通1丁目 3番3	2,400,000	2,370,000	2,400,000	2,440,000			
安政町 4番11	517,000	528,000	548,000	573,000			
辛島町 4番6	498,000	513,000	529,000	556,000			
上林町 1番25外	397,000	405,000	416,000	430,000			

※毎年1月1日における標準地の単位面積当たりの価格

2. 令和6年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和5年4月からスタートした4期計画では、これまで整備された都市基盤施設を最大限に活用しつつ、計画のコンセプトである「昼も夜も歩いて楽しめる、いつまでも魅力的なまち」の実現に向けて各種事業が実施されている。

計画2年目となる令和6年度、既存の都市基盤施設を活用したソフト事業、道路空間の整備や大型マンション等の建設あるいはインバウンド需要の高まりなど中心市街地の賑わいに繋がる取り組みや環境等の変化が「目標指標ごとのフォローアップ結果」にも表れてきており、応分の評価ができるものとする。

熊本市においては令和6年度末、中心市街地活性化基本計画の上位に位置づくビジョンである「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図（熊本市中心市街地ウォークブルビジョン）」を策定された。当該ビジョンの策定に際しては、当協議会幹事会や部会組織である「くまもと新城下町創生会議」あるいはランドデザイン 2050 の地域活性化WG「専任専門会議」などとの議論を経て、中心市街地来訪者の増加や滞在時間の延長、様々な移動手段による回遊の円滑化、勤務者の都心回帰、さらには「まちなか居住」の推進などに全庁的に取り組んでいくこととされた。当該ビジョンに掲げる各取り組みが他部署間と更に連携した事業として取り組むことで相乗効果にも期待できるところであり、効率的、効果的な事業推進に注力していただきたい。

次に、本県に与える経済損失が2,890億円と試算される熊本都市圏の交通渋滞は喫緊の課題であり、熊本都市圏と中心市街地の相互発展に寄与する交通政策と都市政策を連動させた移動サービスについて検討する必要があると考える。現在、計画が進み始めた市庁舎の建て替え移転計画については、あらためて中心市街地に極めて大きな影響を与えるものであり、現庁舎跡地利活用を合わせて中心市街地活性化の一大契機として経済波及効果を最大限に発揮できるよう前述の移動サービスにも着目したまちづくりを推進しさらなる賑わいの創出や周辺市街地の再生に繋げてもらいたい。

さらに、コロナ禍を境に所謂「夜の賑わい」が減少したことで飲食業を始めとするまちの賑わいの礎となる産業の活力が低下し、夜の中心市街地の誘客力が低下している。

近年、台湾を中心とするインバウンドをはじめ国内外からの来熊観光客が増加している。旅先の「食」は目的地選択の重要要素でもあり、インバウンドはもとより在熊の市民・県民の消費拡大に資する「夜間の賑わい」づくりも喫緊の課題であり早期かつ強力に進めていただきたい。

当協議会は、今後とも、熊本市、熊本商工会議所や各まちづくり関係の団体等と連携し中心市街地の活性化に取り組んでいきたいと考えている。

また、従来からくまもと都市戦略会議のもとで取り組んでいる中心市街地の将来ビジョン「熊本市中心市街地ランドデザイン 2050」においても、社会情勢や中心市街地を取り巻く環境変化などを踏まえ、推進体制を見直すとともに今後10年間を見据えた取り組みを検討しており、翌年度早々に開催の都市戦略会議において協議されることとなっている。

今後とも引き続き、中心市街地の活性化に向けて官民一体となった協力体制のもと事業推進に積極的に取り組んで「実装」を積み上げていくことが肝要であるとする。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
時代の変化を見据えた魅力あるまちづくり	「桜町・花畑周辺地区に魅力があると感じる市民の割合」と「熊本駅周辺が魅力的であると感じる市民の割合」	桜町・花畑周辺 50.9% 熊本駅周辺 46.2% (令和3年度)	桜町・花畑周辺 52% 熊本駅周辺 47% (令和9年度)	桜町・花畑周辺 52.6% 熊本駅周辺 44.2% (令和6年度)	B	A	A
にぎわいの創出と回遊性の向上	中心市街地の歩行者通行量	596,766人 (令和3年度)	812,000人 (令和9年度)	668,766人 (令和6年度)	B	A	A
	熊本市内の宿泊客数	168万人(年間) (令和2年)	290万人(年間) (令和9年)	402万人(年間) (令和6年)	A	A	A
安全で安心できるまちなかへの居住促進	中心市街地の居住人口	37,682人 (令和3年度)	37,700人 (令和9年度)	39,307人 (令和6年度)	A	A	A

＜基準値からの改善状況（※1）＞

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

＜目標達成に関する見通しの分類（※2）＞

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A：目標達成が見込まれる

B：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「＜基準値からの改善状況（※1）＞」、＜目標達成に関する見通しの分類（※2）＞ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。（例：a、b、c）

2. 目標達成見通しの理由

「桜町・花畑周辺地区に魅力があると感じる市民の割合」と「熊本駅周辺が魅力的であると感じる市民の割合」については、整備した都市基盤を効果的に活用したソフト事業の取組等により、桜町・花畑周辺地区は目標値を超える数値を維持した。熊本駅周辺地区に関しては、基準値を下回る結果となったが、基準年である令和3年度は、白川口駅前広場の完成及びアミュプラザくまもとの開業が重なり、熊本駅周辺に魅力を感じる市民が多かったことやコロナ禍明けの昨年度との相対的な評価により、令和6年度の魅力的であると感じる市民の割合は減少したと推測される。今後は熊本駅新幹線口の再整備を予定しており、これまで以上に安らぎやにぎわいを感じら

れる空間としていくことから、目標達成は可能と見込まれる。

「中心市街地の歩行者通行量」については、アーケードや花畑広場等を活用し、多種多様なイベントが開催され、昨年度から約 6,000 人増加した。今後は、人中心の快適な都市空間の整備やシェアサイクル等により、利便性・回遊性の向上が期待できることから、目標達成は可能と見込まれる。

「熊本市内の宿泊客数」については、熊本城等の魅力ある観光資源を活かした新たな取組や熊本城マラソンなどのイベントを通して、国内外からの需要が高まり、令和6年は 402 万人と目標値を上回った。今後も、台湾などの東アジアを中心としたインバウンド需要が期待できることから、引き続き各事業に取り組み高い水準の維持を図る。

「中心市街地の居住人口」については、民間事業者による新規マンション建設等の効果から 39,307 人と目標値を上回った。今後も、居住人口の増加に向け、規制緩和や財政支援メニューの拡充等による建て替え促進など各事業に取り組んでいく。

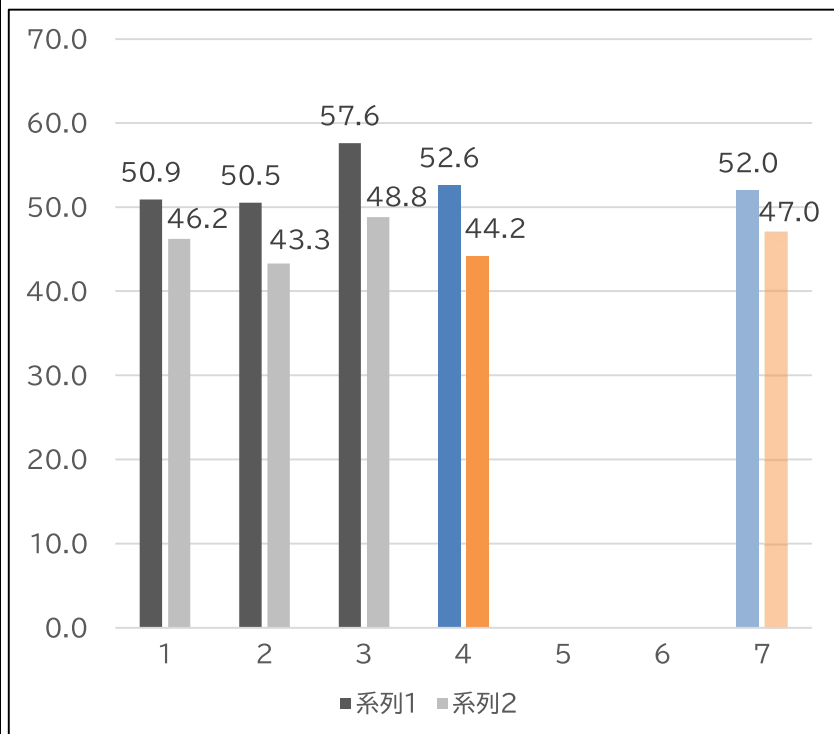
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から見通しの変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「桜町・花畑周辺地区に魅力があると感じる市民の割合」と「熊本駅周辺が魅力的であると感じる市民の割合」※目標設定の考え方認定基本計画 P.67～P.69 参照

●調査結果と分析



年度	(単位: %)
R3	桜町・花畑周辺地区 50.9 熊本駅周辺 46.2 (基準値)
R4	桜町・花畑周辺地区 50.5 熊本駅周辺 43.3
R5	桜町・花畑周辺地区 57.6 熊本駅周辺 48.8
R6	桜町・花畑周辺地区 52.6 熊本駅周辺 44.2
R7	
R8	
R9	桜町・花畑周辺地区 52.0 熊本駅周辺 47.0 (目標値)

※調査方法：「熊本市総合計画市民アンケート」調査結果

郵送法（郵便による調査票配布・回収）及びWEBアンケートによる回収

※調査月：毎年1～2月

※調査主体：熊本市

※調査対象：熊本市

〈分析内容〉

令和6年度の2地区における魅力があると感じる割合は、52.6%（桜町・花畑周辺地区）及び44.2%（熊本駅周辺地区）となった。桜町・花畑周辺地区は昨年度より減少したものの、目標値を上回る数値を維持しており、花畑広場等のこれまでに整備した都市基盤をイベント等で効果的に活用した成果がでている。熊本駅周辺地区については、目標値及び基準値を下回る結果となった。基準年である令和3年度は、白川口駅前広場の完成及びアミュプラザくまもとの開業が重なり、熊本駅周辺に魅力を感じる市民が多かったことやコロナ禍明けの昨年度との相対的な評価により、令和6年度の魅力的であると感じる市民の割合は減少したと推測される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 花畑広場にぎわい創出事業（熊本市）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】			
事業概要	花畑広場（くまもと街なか広場、辛島公園及び花畑公園）において、盆踊り、アートフェスティバル等の多様なイベント開催によるにぎわいを創出する。			
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）			
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】66.3% ・花畑広場において、RKK まつりや台湾祭など多種多様なイベントを開催した。令和6年度の来場者数は約130万人となっており、桜町・花畑周辺地区の魅力向上に寄与している。また、今年度も引き続き、座学やトライアルイベントの開催等を通して、市民主体のイベント等を企画・運営する人材を育成する「くまもと広場ニスト育成スクール」を開催し、市民主体の利活用促進を図っている。 【花畑広場の使用率】			
	令和3年度 （2021年度） ※令和3年11月～ 令和4年3月	令和4年度 （2022年度） ※令和4年4月～ 令和5年3月	令和5年度 （2023年度） ※令和5年4月～ 令和6年3月	令和6年度 （2024年度） ※令和6年4月～ 令和7年3月
	—	59.3%	60.5%	66.3%
事業の今後について	今後も多種多様なイベント等を開催するとともに、くまもと広場ニストの育成など更なる利活用促進を図ることで、桜町・花畑周辺地区の魅力向上に努めていく。			

②. 熊本駅周辺エリア魅力発信事業（西区にぎわいづくり実行委員会）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	熊本駅周辺地区において、地域住民と民間事業者、行政が連携し、地域の課題解決に取り組むとともに、熊本駅周辺におけるイベント開催等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】75,000人 ・熊本駅周辺地区において、「西区フェスタ」、「くまもと森都心プラザ春まつり」及び「KAB 駅前フェスタ」を同時開催した。開催日は悪天候であったものの、昨年度開催時より10,000人多い来場者数となった。令和6年度は新たな試みとして、西区フェスタのステージイベント参加団体を公募し、西区にゆかりのある様々な団体が参加するなど、幅広い世代で楽しめるイベントを開催したことで、熊本駅周辺地区の魅力向上に寄与している。

	【イベントの来客者数】			
	令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)
	63,000 人	66,000 人	65,000 人	75,000 人
事業の今後について	今後も地域住民と民間事業者、行政の連携を行い、地域の課題解決に取り組むとともに、熊本駅周辺におけるイベント開催等を行うことで、熊本駅周辺のにぎわい創出や新たな魅力発信に努めていく。			

③. 熊本駅新幹線口駅前広場交通対策事業（熊本市）

事業実施期間	令和2年度～令和8年度【実施中】
事業概要	駅前広場の交通混雑の解消、円滑な歩行やにぎわいの創出などを目的として、歩行者の動線や、タクシー・バス・一般車の乗降、待機スペースの配置を見直す改善・改修を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（令和5年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】－ ・令和6年度は、市民アンケートや駅利用者、周辺住民等が参加したワークショップの結果を踏まえ、熊本駅新幹線口駅前広場の再整備計画を策定した。また、「将来にわたり誰もが安全で快適に行き交える駅前広場」の再整備に向け、基本設計を実施した。
事業の今後について	今後も熊本駅新幹線口駅前広場の交通混雑の解消、円滑な歩行やにぎわいの創出による魅力向上に向け、引き続き事業を進めていく。 【今後のスケジュール】 ・令和7年度 実施設計、改修工事（既存施設撤去等）着手 ・令和8年度 改修工事（上屋新設等）着手

④. 企業立地促進事業（熊本市）

事業実施期間	平成11年度～【実施中】
事業概要	本市に立地した企業で、本市が指定する要件を満たした企業に対し補助金の交付を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】92件（累計） ・企業立地件数（累計）は92件となり、製造業・情報関連企業等、様々な企業の立地が順調に進んでいる。また、令和6年度の立地企業の新規雇用予定者数は457人にのぼり、市内の雇用増加や都市のブランド力の向上に寄与している。

		【当事業を活用した企業の立地件数（累計）】			
		令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）
		20 件	45 件	75 件	92 件
事業の今後について		引き続き、半導体関連企業や IT 関連企業、デジタルコンテンツ企業など、ターゲットを絞った戦略的な企業誘致活動を展開し、市内の雇用増加や都市ブランド力の向上を図っていく。			

⑤. 地域スタートアップ等支援事業（熊本市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】			
事業概要	成長が期待できるスタートアップ等に対するビジネスプランのブラッシュアップ等の伴走型支援や、学生のスタートアップへのインターン支援等を通じて、将来の地域経済をけん引する企業の育成を図り、地域経済の活性化、雇用の安定確保につなげる。			
国の支援措置名及び支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和5年度～令和6年度）			
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】138人（累計） ・伴走型支援や、クラウドファンディング利用への補助等を行い、将来の地域経済をけん引する企業の育成を図ったことにより、新規創業者数（累計）は138人となった。また、令和6年8月には、スタートアップワールドカップへの出場権をかけた九州予選会を開催し、世界的に活躍するスタートアップや大企業、投資家等との繋がりが生まれるなど地域経済の活性化や都市ブランド力の向上に寄与している。			
	【新規創業者数（累計）】			
	令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）
	18人	46人	91人	138人
事業の今後について	引き続き、伴走型支援や補助等を通じて、将来の地域経済をけん引する企業の育成に取り組むとともに、スタートアップワールドカップ九州予選を開催することで、更なる地域経済の活性化や都市ブランド力の向上につなげていく。			

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和6年度は、花畑広場等の効果的な利活用や企業立地・育成に取り組むことで、中心市街地の魅力向上を図った。

桜町・花畑周辺地区では目標値を上回る数値を維持しており、今後も目標達成が見込まれる。引き続き、花畑広場等の効果的な利活用を推進するとともに、熊本市役所の新庁舎整備を契機とした周辺エリアの一体的なまちづくりを検討していく。

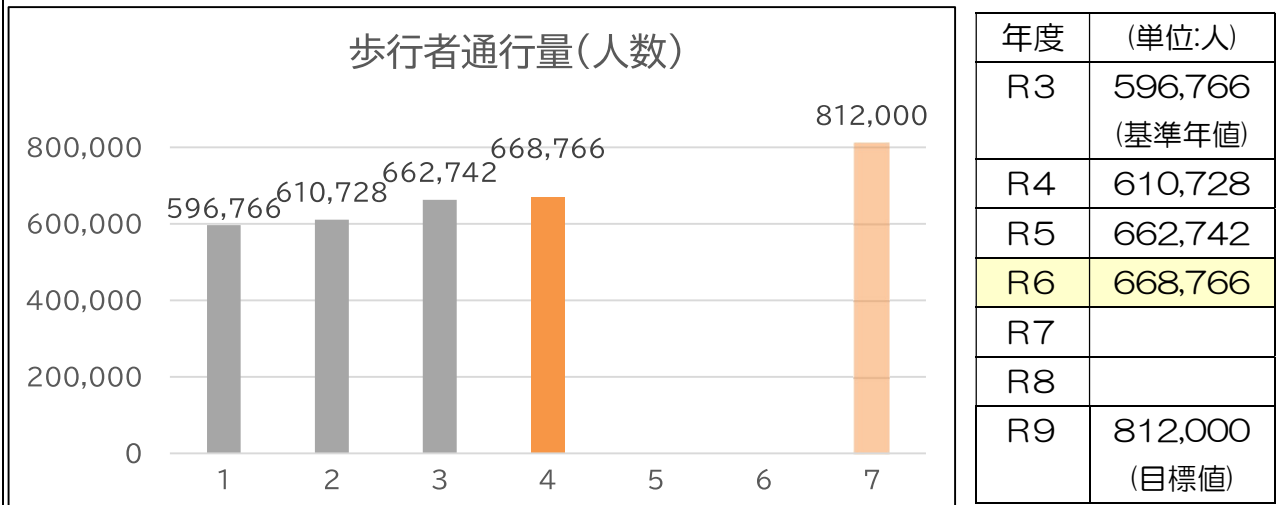
熊本駅周辺地区では、目標値及び基準年と比べ数値は下回ったものの、熊本駅周辺エリア魅力

発信事業では来場客数が増加するなど魅力の向上が図られていることから、引き続き、各種事業に取り組むことで目標達成は可能だと思われる。

今後は更なる魅力を高めるため、新幹線口駅前広場の再整備等により安全性や利便性の向上に取り組んでいく。

(2-1)「中心市街地の歩行者通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P.70～P.73
参照

●調査結果と分析



※調査方法：調査地点（29 地点）を通過する対象者数を進行方向別一定時間計測し、
1 日（12 時間）の通行量（休日と平日の 2 日間）を算出。

※調 査 月：毎年 10 月（ただし、令和 5 年度以降は 11 月に実施）

※調査主体：熊本市

※調査対象：中心商店街及び熊本駅周辺計 29 地点における歩行者等の通行量の合計

(単位：人)

町名(通名)	令和 3 年度 (基準年度)	令和 4 年度 (計画前年度)	令和 5 年度 (1 年目)	令和 6 年度 (2 年目)	令和 7 年度 (3 年目)	令和 8 年度 (4 年目)	令和 9 年度 (5 年目)
上通	109,686	102,774	104,142	110,130			
下通	218,406	218,292	251,946	248,448			
新市街	59,880	74,094	90,972	95,616			
駕町通り	21,948	32,100	33,348	32,772			
水道町	30,432	33,036	35,292	35,964			
熊本駅周辺	62,946	54,408	46,740	55,962			
ワシントン通り	7,692	7,392	9,336	7,644			
プールスコート	4,416	4,152	4,620	3,276			
西銀座通り	6,252	9,684	7,380	6,234			
城見町通り	10,860	11,004	10,380	7,920			
シャワー通り	9,048	7,056	7,824	8,832			
市庁舎通り	9,096	11,664	9,804	9,216			
桜町	18,936	18,288	24,738	22,776			
銀座通り	12,540	12,660	12,084	9,804			
安政町	14,628	14,124	14,136	14,172			
合計	596,766	610,728	662,742	668,766			

〈分析内容〉

台湾などの東アジアを中心としたインバウンド需要の拡大に加え、花畑広場や桜町地区再開発施設等の都市基盤を活用した多種多様なイベント等の開催により、回遊性が向上したことで、令和6年度の歩行者通行量は、昨年度から約 6,000 人増加したと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. ウォークابل都市推進事業（熊本市）

事業実施期間	令和2年度～令和7年度【実施中】
事業概要	熊本市民会館前道路等において、道路空間再配分（歩道の拡幅）や利活用の検討等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（令和5年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】－ ・令和6年度は、中長期的な視点で目指すまちの姿と方向性を共有し、官民連携によるウォークアブルなまちづくりを進めるために「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図（熊本市中心市街地ウォークアブルビジョン）」を策定した。
事業の今後について	今後も「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図」の周知や人中心の快適な都市空間の整備を進め、にぎわいの創出や回遊性の向上に取り組んでいく。 【今後のスケジュール】 ・令和7年度 「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図」の周知・広報を推進 道路空間利活用の具体施策について検討

②. 中心商店街地区魅力向上事業（STREET ART-PLEX KUMAMOTO 実行委員会）

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】				
事業概要	中心市街地において、音楽等のイベント「STREET ART-PLEX KUMAMOTO」を行う。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】12 件（17,528 人）				
	・ 中心市街地において、クラシック、ジャズなどの幅広いジャンルの音楽イベントや大道芸人によるパフォーマンス等を年間通して定期的に開催した。令和6年度は、約 17,500 人のイベント集客があり、にぎわいの創出及び回遊性の向上に寄与している。				
	【イベント集客数】				
	年度	令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)
	開催件数	8件	9 件	13 件	12 件

	集客数	8,103 人	13,224 人	18,506 人	17,528 人	
事業の今後について	今後は、上通・下通・新市街の各商店街と連携し、事業計画の見直しを行い、引き続き中心市街地のにぎわいの創出及び回遊性の向上に取り組んでいく。					

③. 文化芸術支援事業（熊本市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】																			
事業概要	地元アーティストと発表の場を提供できる店舗等をWEB上に登録し、マッチングイベントを推進する。																			
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）																			
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】320人（110箇所） アーティストとスポット（発表の場）のマッチングイベント「アーティストウィーク熊本2024.12」を中心市街地で実施したほか、熊本市の歴史的風致形成建造物であるカリーノ MS ビルを会場に音楽ライブやライブドローイングを実施するなど新たな取組を行い、にぎわいの創出に寄与している。 【アーティスト・スポットの登録状況】 <table><tr><td>年度</td><td>令和3年度 （2021年度）</td><td>令和4年度 （2022年度）</td><td>令和5年度 （2023年度）</td><td>令和6年度 （2024年度）</td></tr><tr><td>アーティスト数</td><td>167人</td><td>232人</td><td>280人</td><td>320人</td></tr><tr><td>スポット数</td><td>72箇所</td><td>88箇所</td><td>106箇所</td><td>110箇所</td></tr></table>					年度	令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）	アーティスト数	167人	232人	280人	320人	スポット数	72箇所	88箇所	106箇所	110箇所
年度	令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）																
アーティスト数	167人	232人	280人	320人																
スポット数	72箇所	88箇所	106箇所	110箇所																
事業の今後について	今後もアーティストウィークの開催や、事業の広報、新規スポットの開拓に努めていくことで、文化芸術による中心市街地の更なるにぎわいの創出と回遊性の向上に取り組んでいく。																			

④. 主要地方道熊本高森線（唐人町通り）の道路空間美装化事業（熊本市）

事業実施期間	令和3年度～令和8年度【実施中】				
事業概要	新町・古町地区の中心に位置し、地域主体による歴史的建造物等の活用が進められている「唐人町通り」において、歴史ある町並みの持続的な継承・成長を図り、にぎわい・回遊・滞留につなげるための道路空間整備を行う。				
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（令和5年度～令和7年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】— 令和6年度は、明八橋につながる市道部分の道路美装化等の整備を行った。また、沿道及び周辺民有地の一体的な景観形成や地域資源の活用のための「景観まちづくりルール」を策定した。				

事業の今後について	今後も県道部分の美装化工事に着手していくとともに、沿線の民有地を含めた景観まちづくりを検討し、にぎわいの創出と回遊性の向上に取り組んでいく。 【今後のスケジュール】 ・令和7年度 唐人町通り本線の西唐人町部分に着手 ・令和8年度 唐人町通り本線の中唐人町部分に着手			
-----------	---	--	--	--

⑤. シェアサイクル利用促進事業（熊本市、シェアサイクル事業者）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】																		
事業概要	サイクルポートに設置された自転車を利用登録者が共有し、24 時間いつでも好きな場所で貸出・返却を可能とする。																		
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし																		
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】1,186,128 回（868,060 人） ・2 年間の実証実験を経て、事業の効果が確認できたことから、令和6 年4月より本格運用へと移行した。さらなる利用環境の向上を図るため、8月に健軍・江津湖・日赤方面の居住地へエリアを拡大するとともに、自転車台数やポート数を拡充したことで、昨年度に比べ利用者数、利用回数が大幅に増加し、中心市街地を含めた回遊性向上へ大きく寄与している。 【シェアサイクル利用状況】 <table><tr><td>年度</td><td>令和3年度 (2021 年度)</td><td>令和4年度 (2022 年度)</td><td>令和5年度 (2023 年度)</td><td>令和6年度 (2024 年度)</td></tr><tr><td>利用者数</td><td>未実施</td><td>41,635 人</td><td>164,926 人</td><td>868,060 人</td></tr><tr><td>利用回数</td><td>未実施</td><td>177,391 回</td><td>736,570 回</td><td>1,186,128 回</td></tr></table>				年度	令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)	利用者数	未実施	41,635 人	164,926 人	868,060 人	利用回数	未実施	177,391 回	736,570 回	1,186,128 回
年度	令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)															
利用者数	未実施	41,635 人	164,926 人	868,060 人															
利用回数	未実施	177,391 回	736,570 回	1,186,128 回															
事業の今後について	今後もシェアサイクルの対象エリアの拡大や自転車の増車など利用環境の充実を図り、利便性を増進させ、にぎわいの創出と回遊性の向上に取り組んでいく。																		

⑥. くまもと花博（くまもと花博実行委員会）

事業実施期間	令和5年度～【実施中】			
事業概要	中心市街地等において、フラワーアートの展示などを通して熊本の花や自然の魅力を伝える「くまもと花博」を開催する。			
国の支援措置名及び支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和5年度～令和9年度）			
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】248,966 人（216,423 人） ・「街なかエリア」「水辺エリア」「まち山エリア」の3 エリアでくまもと花博を開催した。令和6年度の「街なかエリア」の来場客数は約 216,000 人となっており、中心市街地のにぎわい創出と回遊			

	性の促進に寄与している。				
	【来場客数】				
	年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3エリア	未実施	206,100人	212,200人	248,966人
	街なかエリア	未実施	182,600人	160,600人	216,423人
事業の今後について	今後も、様々な媒体を活用した広報活動等により事業を推進し、花や緑を通じた中心市街地のにぎわいの創出と回遊性の向上に取り組んでいく。				

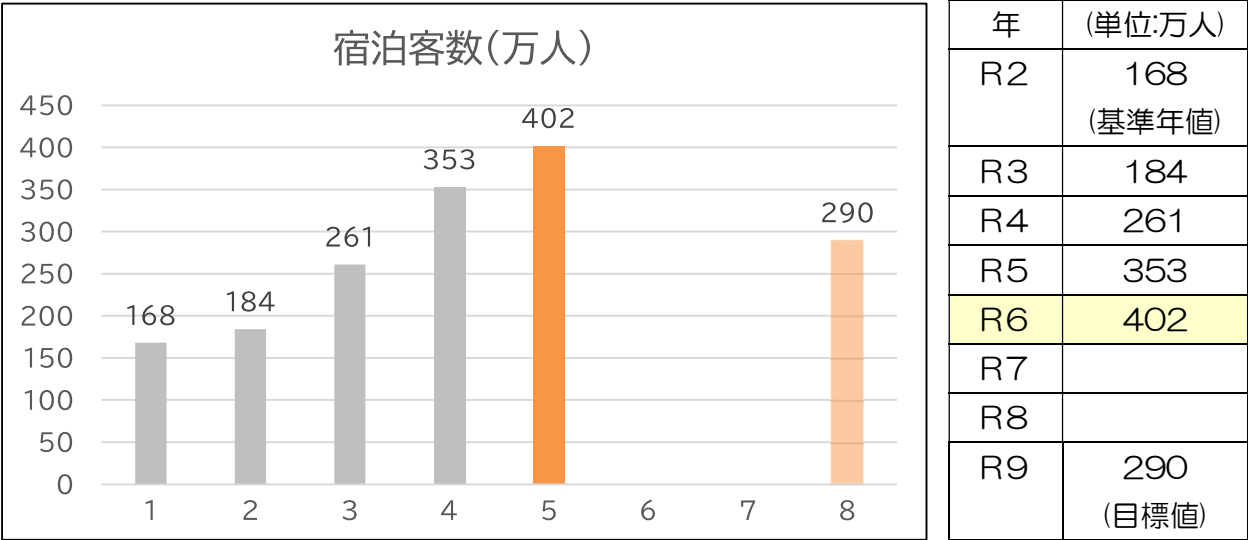
●目標達成の見通し及び今後の対策

引き続き、台湾などの東アジアを中心としたインバウンド需要が期待されており、花畑広場や桜町地区再開発施設等の都市基盤を活用した多種多様なイベントの開催やシェアサイクル等の新たな移動手段の普及により、回遊性を向上させることで目標達成は可能だと思われる。

今後は、「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図（熊本市中心市街地ウォーカブルビジョン）」の普及啓発とともに、より人中心の快適な都市空間の整備に取り組むことで、更なる歩行者通行量の増加へと繋げていく。

（2－2）「熊本市内の宿泊客数」※目標設定の考え方認定基本計画 P.74～P.77 参照

●調査結果と分析



※調査方法：熊本市観光統計

※調 査 月：毎年 1 月～12 月

※調査主体：熊本市

※調査対象：市内のホテル、旅館、公共宿泊施設の年間宿泊客数

〈分析内容〉

令和6年における市内の宿泊客数については、過去最高を記録した令和5年の宿泊客数を超え、402万人となった。これは、熊本城の特別公開など本市の魅力ある観光資源の効果的なPRに加えて、中心市街地における宿泊施設の増加やわかりやすい多言語標記など受入環境の整備により、台湾などの東アジアを中心としたインバウンド需要を取り込むことができたためであると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 熊本城特別公開関連事業（熊本市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】			
事業概要	入園券等の販売においてキャッシュレス・DXの推進を図る。 熊本城の歴史・文化に関する誘客コンテンツの創出や SNS 等を活用した情報発信により、誘客の促進を図る。			
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）			
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】1,419,664 人 ・特別見学通路や天守閣の公開に加え、令和6年度には、「宇土櫓素屋根特別公開」や北口ルート公開日の拡充を実施した。また、秋のお城まつりに合わせて日本最大級の人工雲海を出現させる「雲上の熊本城」の公開等により、入場者数は昨年度に比べ約 66,000 人増加しており、市内の宿泊客数増加に寄与している。			
	【熊本城入場者】			
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	447,851 人	1,002,978 人	1,353,520 人	1,419,664 人
事業の今後について	今後も観光客や市内宿泊客数の増加に向け、「雲上の熊本城」などの取組を推進し、文化観光拠点としての魅力向上を図っていく。			

②. インバウンド誘客対策事業（熊本市）

事業実施期間	【未】〔認定基本計画：継続中（開催時期不明）〕
事業概要	中心市街地には熊本城をはじめとする主要な観光・文化施設が存在しており、復興に向けた観光振興として、復旧が進む熊本城をはじめとした観光資源の国外へのPRを行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】889,616人 ・「食」をいかした観光プロモーションや、西日本・九州の各市と連携した「西のゴールデンルート」周遊観光プロモーション（連携自治体を巡る周遊ルートの造成や、WEBを活用した広告配信、ツー

	リズム EXPO ジャパンへの出展等）を行った。令和6年の海外からの延べ宿泊客数は前年比で 205%を超えており、市内の宿泊客数増加に大きく寄与している。 【延べ宿泊客数（海外客）】 <table><tr><td>令和3年 (2021 年)</td><td>令和4年 (2022 年)</td><td>令和5年 (2023 年)</td><td>令和6年 (2024 年)</td></tr><tr><td>5,658 人</td><td>47,222 人</td><td>433,602 人</td><td>889,616 人</td></tr></table>				令和3年 (2021 年)	令和4年 (2022 年)	令和5年 (2023 年)	令和6年 (2024 年)	5,658 人	47,222 人	433,602 人	889,616 人
令和3年 (2021 年)	令和4年 (2022 年)	令和5年 (2023 年)	令和6年 (2024 年)									
5,658 人	47,222 人	433,602 人	889,616 人									
事業の今後について	今後も観光客や市内宿泊客数の増加に向け、アジアを中心として福岡空港及び阿蘇くまもと空港に直行便のある市場を重点ターゲットとし、他都市と連携したインバウンド向け周遊観光プロモーションなど本市の観光資源のPRに取り組んでいく。											

③. 観光客受入環境整備事業（熊本市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】											
事業概要	市電及びしろめぐりんのフリーWi-Fi の提供、観光案内所2か所におけるデジタルサイネージの提供、通訳ガイドの育成などの外国人観光客受入環境整備を行う。											
国の支援措置名及び支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和6年度～令和8年度） 訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業費補助金（観光庁）（令和5年度）											
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】68.5% ・地域通訳案内士の育成、熊本駅、熊本城及び周辺をつなぐ周遊バス「しろめぐりん」や市電における Free Wi-Fi の提供を行った。加えて、観光案内所におけるデジタルサイネージを活用した情報提供や、飲食店・宿泊施設向けの食の多様性セミナーを開催するなど、観光客の受入環境の向上を図ったことから、観光客の満足度は68.5%と一定水準に達しており、利便性の増進及び市内の宿泊客数増加に寄与している。 【観光客の満足度】 <table><tr><td>令和3年度 (2021 年度)</td><td>令和4年度 (2022 年度)</td><td>令和5年度 (2023 年度)</td><td>令和6年度 (2024 年度)</td></tr><tr><td>34.9%</td><td>72.4%</td><td>62.5%</td><td>68.5%</td></tr></table>				令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)	34.9%	72.4%	62.5%	68.5%
令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)									
34.9%	72.4%	62.5%	68.5%									
事業の今後について	今後も観光客の利便性の増進及び市内の宿泊客数増加に向け、Free Wi-Fi やデジタルサイネージを活用した情報提供をするとともに、地域通訳案内士の育成拡大や食の多様性セミナーの実施など受入環境の整備に取り組んでいく。											

④. 中心市街地建て替え促進事業（まちなか再生プロジェクト）（熊本市）

事業実施期間	令和２年度～令和１１年度【実施中】			
事業概要	中心市街地の老朽建築物の建て替え等に対する財政支援を実施する。			
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（令和５年度～令和７年度）			
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】２７件（令和５年度時点の累計） ・防災機能強化等に着目した容積率の割増し、高さ基準に係る特例承認や建築物等に対する財政支援を実施した。令和６年度には、新たな宿泊施設の建設に対し事業指定を行うなど、にぎわいの創出及び市内の宿泊客数増加に寄与している。 【建て替え件数（累計）】			
	令和３年度 （２０２１年度）	令和４年度 （２０２２年度）	令和５年度 （２０２３年度）	令和６年度 （２０２４年度）
	１９件	２２件	２７件	集計中
事業の今後について	規制緩和（運用基準の見直し）や地元金融機関との連携協定に基づく、財政支援の拡充を行い、中心市街地の老朽建築物の更なる建て替えを促進していく。			

⑤. MICE誘致戦略事業（熊本市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】				
事業概要	M I C E 誘致活動、コンベンションの開催の助成を行う。				
国の支援措置名 及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）				
事業目標値・最新 値及び進捗状況	【最新値】344 件（162,197 人）				
	・令和6年度は、これまでの誘致活動に加え、新たに地元への波及 効果を図るため「地元経済界・大学等との MICE 交流会」の開催等 に取り組んだ。コンベンション開催件数は 344 件と増加傾向にあり、 市内外から 162,197 人と多くの参加者が訪れ、宿泊客数の増加に寄与 している。				
	【コンベンション開催状況】				
	年度	令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)
	開催件数	103 件	236 件	272 件	344 件
	参加者数	36,412 人	102,208 人	124,265 人	162,197 人
事業の今後につ いて	今後も更なる市内外からの来訪や宿泊客数の増加に向け、熊本市 第2期 MICE 誘致戦略に基づく重点ターゲットへの誘致活動を展 開するとともに、MICE に係る国際的な賞の受賞効果を活用した国 際会議プロモーションに取り組んでいく。				

⑥. 熊本城マラソン事業（熊本城マラソン実行委員会）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】																		
事業概要	「熊本城マラソン」を開催する。																		
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）																		
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】 14,237 人（4,645 人） ・ 令和6年度のマラソン大会の出走者数は 14,237 人となっており、そのうち県外からの参加者は 4,645 人と県外からの宿泊客数の増加に寄与している。 【マラソン大会の出走者数】 <table> <tr> <th>年度</th><th>令和3年度 (2021 年度)</th><th>令和4年度 (2022 年度)</th><th>令和5年度 (2023 年度)</th><th>令和6年度 (2024 年度)</th></tr> <tr> <td>出走者数</td><td>未開催</td><td>11,710 人</td><td>14,639 人</td><td>14,237 人</td></tr> <tr> <td>うち県外</td><td>未開催</td><td>2,488 人</td><td>3,946 人</td><td>4,645 人</td></tr> </table>				年度	令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)	出走者数	未開催	11,710 人	14,639 人	14,237 人	うち県外	未開催	2,488 人	3,946 人	4,645 人
年度	令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)															
出走者数	未開催	11,710 人	14,639 人	14,237 人															
うち県外	未開催	2,488 人	3,946 人	4,645 人															
事業の今後について	今後もスポーツを通じた本市の魅力発信や市内宿泊客数の増加に向け、本市の主要スポーツイベントとして安心安全で魅力的な大会の実施に取り組んでいく。																		

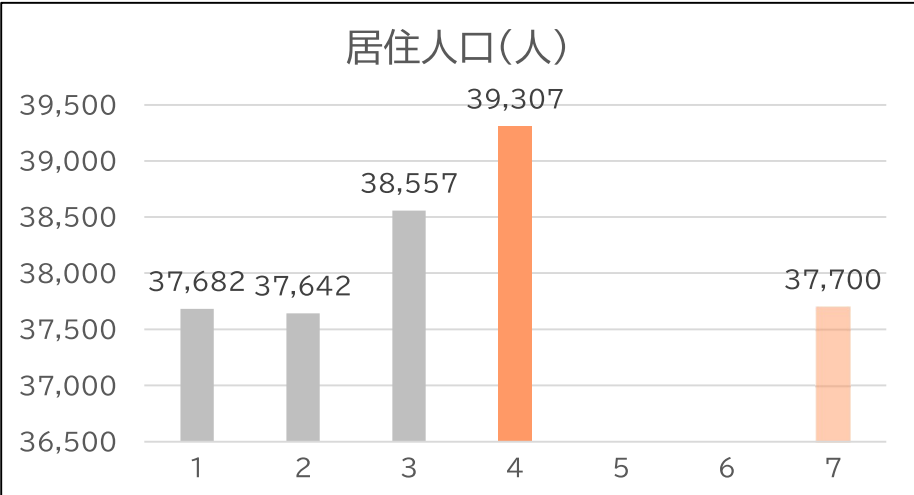
●目標達成の見通し及び今後の対策

引き続き、台湾などの東アジアを中心としたインバウンド需要が期待されており、熊本城の特別公開など本市の魅力ある観光資源を活用した誘客事業等に取り組むことで、目標達成は可能だと思われる。

今後は、熊本ならではの夜の魅力の拡大と観光における新たな価値を創出する素材等の提供に取り組むことで、新たなにぎわいの創出や市内の宿泊客数増加につなげていく。

(3)「中心市街地の居住人口」※目標設定の考え方認定基本計画 P.78～P.81 参照

●調査結果と分析



年度	(単位：人)
R3	37,682 (基準年値)
R4	37,642
R5	38,557
R6	39,307
R7	
R8	
R9	37,700 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳からの集計

※調査月：毎年10月1日

※調査主体：熊本市

※調査対象：中心市街地7校区の住民基本台帳登録者

(参考) 校区別居住人口の推移(上段：人口(人)、下段：前年比))

校区	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
城東	3,021	3,157	3,211	3,169			
	98.40%	104.50%	101.71%	98.69%			
慶徳	3,838	3,787	3,864	3,902			
	100.63%	98.67%	102.03%	100.98%			
五福	3,999	3,965	3,913	3,924			
	101.91%	99.15%	98.69%	100.28%			
一新	10,140	10,131	10,244	10,349			
	101.14%	99.91%	101.12%	101.02%			
碩台	6,186	6,089	6,177	6,323			
	100.28%	98.43%	101.45%	102.36%			
古町	3,343	3,333	3,546	3,610			
	101.09%	99.70%	106.39%	101.80%			
春日	7,155	7,180	7,602	8,030			
	104.22%	100.35%	105.88%	105.63%			
合計	37,682	37,642	38,557	39,307			
	101.36%	99.89%	102.43%	101.95%			

〈分析内容〉

中心市街地7校区の居住人口は、昨年度から750人増加した。校区别では、城東校区を除いた全ての校区で人口が増加しており、特に春日校区では、昨年度比で105%を超えている。その理由として、熊本駅周辺地区では、民間事業者による新規マンションの建設が活発に行われており、高次な都市機能が集積する中心市街地の利便性・快適性や安全性などの魅力により、需要が高まっていることが影響したものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地建て替え促進事業（まちなか再生プロジェクト）（熊本市）

事業実施期間	令和2年度～令和11年度【実施中】			
事業概要	中心市街地の老朽建築物の建て替え等に対する財政支援を実施する。			
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（令和5年度～令和7年度）			
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】27件（令和5年度時点の累計） ・防災機能強化等に着目した容積率の割増し、高さ基準に係る特例承認や建築物等に対する財政支援を実施した。令和6年度においては、新たに低層階に店舗を設けたマンションの建設に対し事業指定を行うなど、まちなかへの居住促進に寄与している。			
	【建て替え件数（累計）】			
	令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）
	19件	22件	27件	集計中
事業の今後について	規制緩和（運用基準の見直し）や地元金融機関との連携協定に基づく、財政支援の拡充を行い、中心市街地の老朽建築物の更なる建て替えを促進していく。			

②. マンション適正管理支援事業（熊本市）

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	マンションの適正な維持管理の誘導を図るためのセミナー開催、マンション管理士派遣、無料相談会開催及び耐震化支援などを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（地域住宅政策推進事業））（国土交通省）（令和5年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】14件（6件） ・マンションの適正管理を支援するため、相談会、セミナー、意見交換会、専門家の派遣、管理規約整備補助、耐震化補助、管理計画認定、管理組合登録等を実施した。各取組により、マンションの適正管理が推進されており、安全で安心な居住環境の向上に寄与している。

	【マンション管理士派遣件数、マンション管理計画認定件数】				
	年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	マンション管理士派遣件数	15件	16件	18件	14件
	マンション管理計画認定件数	制度未制定	2件	7件	6件
事業の今後について	今後も各種支援事業に取り組むとともに、長期修繕計画作成を支援するための新たな補助制度を開始し、安全で安心な居住環境の向上を図っていく。				

③. 住宅・建築物耐震化促進事業（熊本市）

事業実施期間	平成20年度～【実施中】			
事業概要	平成12年5月31日以前に着工した戸建木造住宅（3階建以下）の耐震診断や耐震改修等に対する支援を行う。			
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（住宅・建築物安全ストック形成事業）（国土交通省）（令和5年度～令和9年度）			
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】96.1% ・住宅の耐震診断や耐震改修（建替え等による耐震化の促進を含む）に関する各種補助金の給付などにより、既存建築物の安全性の向上を図った。令和6年度の耐震化率は96.1%と年々上昇傾向にあり、市民の住宅に対する耐震化への意識を高め、安全・安心な居住環境の整備に寄与している。			
	【耐震化率】（参考推計値）			
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	94.5%	95.0%	95.6%	96.1%
事業の今後について	今後も住宅の耐震診断や耐震改修に関する各種補助金の給付等に取り組み、安全で安心な居住環境の向上を図っていく。			

④. 街なか子育てひろば事業（熊本市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	現代美術館内に子育て支援スペースを設置し、地域子育て支援拠点施設の運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金（こども家庭庁）（令和5年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】13,202人 ・親子で参加できる講習会や、美術館とコラボしたワークショップ

	等を実施し、子育て中の親子が気軽に立ち寄れる交流の場を提供した。令和 6 年度の利用者数は、約 13,000 人となっており、中心市街地のにぎわいの創出とファミリー層の中心市街地への居住促進に寄与している。 【利用者数】 <table><tr><td>令和 3 年度 (2021 年度)</td><td>令和 4 年度 (2022 年度)</td><td>令和 5 年度 (2023 年度)</td><td>令和 6 年度 (2024 年度)</td></tr><tr><td>3,244 人</td><td>6,980 人</td><td>11,579 人</td><td>13,202 人</td></tr></table>	令和 3 年度 (2021 年度)	令和 4 年度 (2022 年度)	令和 5 年度 (2023 年度)	令和 6 年度 (2024 年度)	3,244 人	6,980 人	11,579 人	13,202 人
令和 3 年度 (2021 年度)	令和 4 年度 (2022 年度)	令和 5 年度 (2023 年度)	令和 6 年度 (2024 年度)						
3,244 人	6,980 人	11,579 人	13,202 人						
事業の今後について	今後も育児不安や孤独感を防ぐための交流の場や利用者同士の仲間づくりの場として提供を行うなど、安心して子育てができる環境整備に取り組み、中心市街地のにぎわいの創出とファミリー層の中心市街地への居住促進を図っていく。								

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和 6 年度の中心市街地の居住人口は目標値を大幅に超える結果となっており、今後も更なる居住人口の増加が期待されているため、目標達成が見込まれる。引き続き、中心市街地建て替え促進事業による規制緩和や財政支援メニューの拡充等により、建て替え需要を活性化させるとともに、金融機関と連携した効果的な支援に取り組んでいく。また、耐震化等による防災力の向上が進む中で、街なか子育てひろば事業やマンション適正管理支援事業等により、ファミリー層の支援や居住施設における連携・コミュニティの強化に取り組んでいくことでハード・ソフトの両面から安心安全なまちづくりへと繋げ、居住人口の増加を図っていく。